

会議のトピックス(II)

International Conference on Nuclear Data for Science and Technology (ND2007) April 22 - 27, 2007, Nice, France

核データ分野で最大、且つ、歴史と権威ある標記会議 (ND2007) が南フランスの地中海に面したリゾート地、ニースで開催された。このシリーズの会議は原則 3 年毎に開催されており、前回の ND2004 (米国・サンタフェ) に続くものである。米国と欧州で交互に開催されるが、1988 年 (水戸) と 2001 年 (つくば) の 2 回は日本で開催されている。

会議で対象としているトピックス分野は広く、核データ関連の全ての分野をカバーしていると言っても過言ではない。そのため、毎回 500 件を超すアブストラクトがサブミットされるが、ND2007 の場合も 500 件を超した。しかし今回は、会場の制限から、国際プログラム委員会の審査によって類似の発表を 1 件に纏める等して、400 件以下に絞られた。結果的には、プレナリー 6 件、口頭 165 件、ポスター 228 件、合計 399 件の発表が予定された。(実際には、ビザの関係等で数件のキャンセルが発生した。)

初日の月曜日はオープニング・セッションで始まり、このセッション最後のスピーカーは OECD/NEA データバンクの長谷川明氏 (前、原子力機構) であった。火曜から木曜の最初のセッションはプレナリー各 2 件の発表で、木曜日には高田弘氏 (原子力機構) が加速器施設関連核データについて発表した。ポスター発表は月・火と水・木の 2 回に分けて夕方に行われた。口頭発表は 3 パラレル・セッションで行われた。各セッションは 1 時間 30 分程度と適当であり、また、セッション間には 30 分間のコーヒー・ブレイクが用意されていたため適当な息抜きができ、一日中かなり集中して発表を聴くことができた。なお、月曜と水曜のポスター発表では、後半の時間帯にワインが用意され、参加者の興味 (?) を惹く工夫がなされていた。

参加者リストによると約 380 名の参加で、数え間違いがあるかもしれないが、地元フランスから 92 名、米国から 50 名、日本から 39 名、ロシアから 22 名、次回 (2010 年春) 開催国の韓国からは 10 名の参加であった。今回も若い参加者が目立っていた。

発表件数を 400 件以下に絞ったため参加者も比較的少ない感じがしたが、リゾート地開催に相応しく会議全体はゆったりと進行し、参加者は ND2007 を堪能した。

以下では、核データ測定関係、理論・評価関係、応用関係に分けて、ND2007 の様子を紹介していただいた。
(編集委員会)